

## 高齢者の食生活と QOL

○大谷 貴美子、杉山美穂、中北理映、南出隆久、饗庭照美<sup>1)</sup>、  
康薔薇<sup>2)</sup>、松井元子<sup>3)</sup>、山田朋美<sup>4)</sup>、恵比須繁之<sup>4)</sup>  
(京都府大、<sup>1)</sup>光華女子大、<sup>2)</sup>兵庫栄養専、<sup>3)</sup>市邨学園短大、<sup>4)</sup>阪大歯)

**【目的】** 高齢者の QOL に関しては、数多くの報告が成されているが、本研究では、「食」が生命の糧ばかりでなく、生活を豊かにするものと考え、また、口腔ケアの重要性が叫ばれているように、咀嚼は食べるという行為の原点であるという認識に立ち、「食生活」が高齢者の QOL とどのように関わっているかを、アンケート調査を通して検討を行った。

**【方法】** アンケート調査は、2000 年 9 月より 2001 年 1 月にかけて、家庭で生活をしている 70 歳以上の高齢者を対象に行った。アンケートの内容は、本人の属性に関する質問(4)、食生活に関する質問(20)、歯の状態に関する質問(5)、日常生活に関する質問(18)からなっている。統計処理には、SPSS を用いた。

**【結果】** 有効アンケートの回収率は、2001 年 1 月現在 281 (♂:82、♀:199)で、回答者の平均年齢は79.5歳であった。独居、同居を比較すると、男性はADLの高低に関わらず圧倒的(96%)に同居が多く、女性の場合は、ADLが高くて同居している人は、同居者の約62%であった。主観的QOLについては、独居、同居、またADLの高低に関わらず有意差は認められなかった。しかしながら、主観的QOLに与えている要因には、違いが認められた。また「食生活」の果たす役割については、独居の女性の場合には、社会的な関係を持つ手段としての「食生活」の役割が大きく、同居の場合には生活の楽しみとしての「食生活」の役割が大きかった。現在、さらに調査および分析を続行中であり、QOLに与える要因間の関係についても詳しく検討し、報告する予定である。